

ベイタウンまち育て

幕張ベイタウン協議会ニュース 創刊号

発行責任者：(仮称)幕張ベイタウン協議会設立準備会／幕張ベイタウン自治会連合会

平成 20 年 10 月 25 日

転機を迎えるベイタウン

これから、まちを担うのは？



パレードも絵になる街並み

幕張ベイタウンは、あと四街区の整備を残すのみで、ハードな街づくりの最終段階にきています。日本でも例を見ない「住宅による街づくり」が進められてきたベイタウンは、私たち住民の暮らしやすさや快適性を大切に守る「まち育て」を考える時期に来ているのではないのでしょうか。

◆街づくりが終わると、

①公共施設の管理が移る

千葉県企業庁によって整備された高い水準の公共施設は、順次、千葉市へ管理が移っていきます。

②民間事業者グループが撤退する

デザインガイドライン等に沿って各々個性あるマンションの供給を行ってきた民間事業者グループは、全街区の整備が終わるとともに、基本的にはベイタウンの事業から撤退することになります。

③千葉県企業庁が解散する

県内各地でまちづくりの推進力となってきた千葉県企業庁は、平成二十四年に解散することが決まっています。

◆新たなまちの課題

街づくりの使命を終えた千葉県企業庁と住宅事業者のあとは、誰がこのベイタウンを支えることになるのでしょうか。

- ・ゴミ空気輸送システムの運営
- ・高規格な街並みの維持（石畳や街灯）
- ・公園・緑地の管理
- ・コアの拡充
- ・店舗や賃貸住宅の管理・運営



ゴミ空気輸送システムの終着点
幕張クリーンセンター（内部）

◆まち育てを始めよう

何よりも大事なことは、住民である私たちが身近な問題として考え、「まち育て」の意識を持つことだと考えています。

具体的な取り組みとして、千葉県や千葉市、民間事業者グループと連携しながら、住民が主体的にまちの管理・運営を担っていくことが考えられます。

まず、一步を踏み出すために、ぜひとも関心を持ってください。

街づくりからまち育てへ

みなさんは、なぜ「幕張ベイタウン」に暮らすことを決めましたか？ 既存のアンケート等の結果で、その理由の多くに挙げられるものとして「都市デザイン・景観に配慮した街並み」、「便利なゴミ空気輸送システム」、「教育環



街区ごとのデザインの違いが魅力的な街

境の整った学校」などがあります。これらハード面での街づくりを行ってきたのは、開発主体者の千葉県企業庁と住宅事業者の連携によるものでした。

◆これまでの動き
 企業庁は組織の解散を視野にいれ、今後のベイタウン全体の管理・運営を検討するため、住民代表、千葉市、住宅事業者、企業庁をメンバーとする「幕張新都心住宅地区の管理・運営のあり方に関する研究会」（以下、「あり方研

究会」という。）を組織し、報告書をまとめました。この研究会には幕張ベイタウン自治会連合会から住民代表を出して参加してきました。

シンポジウムの開催やまち育ての紹介

◆シンポジウムを開催

「まち育て」に関するシンポジウムを三回開催することを企画しています。第一回は十一月二十四日です。第二回、第三回とテーマやプレゼンターを変えながら、ベイタウンの今を見つめ、企業庁、千葉市、住宅事業者グループにも参加してもらい、将来のために私たちができることを考えるきっかけになることを願っています。

◆まち育て活動を支援

ベイタウンでは、「この指とまれ」方式でやりたいことや取り組むべきことがあれば、そう思っている人達が力を合わせて実行していくやり方をとってきました。今後、こうした活動の広報や発表の機会を設けるなどして、広く住民の皆さんに知っていただきたいと思っております。

千葉市への公共施設の移管について

●移管の対象

道路（一部開始）、公園緑地（H.19年度末 89% 移管済）、コミュニティコア（H.13年度末移管済）、ゴミ空気輸送システム

●移管情報の周知状況

平成19年実施アンケートでは、千葉市への公共施設の移管について、ある程度知っているという回答は15%程度ですが、移管の内容に関心があるという回答は65%に達しました。

「あり方研究会」報告書より

◆住民サイドにおける動き

あり方研究会の動きを受けて、その研究会に参加していた住民代表の呼びかけにより、住民協議会設立準備会（現在は幕張ベイタウン協議会設立準備会と改称）を開催しました。三回の会合の中で、これまでの動きや今後の動きなどを報告、住民を含めた幕張ベイタウン全体への周知や意思決定方法、体制づくりなどの課題について意見交換を行ってきました。

また、その準備会において住民から有志を募って作業部会を組成し、具体的な検討や議論をこれまで十二回にわたって行い、このニュース発行やシンポジウムの企画など、みなさんの目に

見える形につなげようとしているところです。

◆自治会連合会の支援

これらの活動に対して、住民が一体となった取り組みを円滑に進めるため、自治会連合会として国土交通省所管の助成事業「二〇〇年住まい・まちづくり担い手事業」の公募に手を上げ、全国の対象団体の一つに選定されました。ボランティア頼みの住民の活動に対して、その負担軽減とさまざまな活動への支援が可能となりました。

ニュースの発行やシンポジウムの実施、さらにはあり方研究会報告書についても、その内容をお伝えするために、みなさんの手元にお届けできるように準備を進めています。



住民有志による作業部会の一コマ

まち育ての歩み(第一回) ベイタウンまつり

ベイタウンでは、すでにまち育ての取り組みが始まっています。街開きの当初から、同じ街に住むことになった人達が交流を深めたいと、パティオや集会所を使った入居パーティやコンサートを開いてきました。

こうした取り組みが「まち育て」につながっています。

ベイタウンで最初の「まち育て」

よその土地から引越しをしてきた新住民ばかりの方々が、手探りで始めたベイタウンまつりですが、今も脈々と受け継がれるその基本の開催スタイルは、ベイタウンで初めての「まち育て」と言えるものではないでしょうか。家

「幕張ベイタウン物語」 「まち育て」

（平成八年八月、発行幕張TMC）

ベイタウン一期・二期のパティオス一番街から十二番街までの入居まもない居住者の不安や期待などがうかがえる実録本。まち育てが始まるうとしている初期の光景が目まぐるしく浮かぶようです。図書館でご覧いただけるほか、グランパティオス公園西の街の方に聞けば、まだお持ちの方も多いいのでは。

族や友人たちとの触れ合いが楽しめるフリーマーケット、サークルや街区の仲間による多彩なメニューの飲食店など、ベイタウンまつりならではの毎年見られる光景は、ベイタウンの風物詩の一つになっています。



プロムナードを舞台に

①コミュニティ参加へのきっかけに
街開きから一年たった一九九六年六月に企業庁が主催したベイタウンまつりが、少し形を変えて、一九九八年五月に住民主権の手作りのまつりとして始められ、今年で十一回目を迎えました。

ベイタウンの歴史をまとめている「幕張ベイタウン誕生十年記念誌」によれば、『おまつりは、「住民の方がコミュニティ活動に参加できるきっかけ」として始まり、「まつりをしませんか」という一枚のポスターで集まった有志が実行委員会を組織し、企画から役所への交渉や著名人の誘致、当日の運営から後片づけまでのすべてを住民が行いました。』と紹介されています。そして、今は自治会連合会を中心とした運営方式へと受け継がれています。

②住民の企画による多彩なイベント

企業庁や住宅事業者、工事中の建設会社、果ては幕張メッセまで巻き込んだ最初のベイタウンまつり以降、住民自身の企画によるにぎやかで多彩なイベントが年々行われてきました。

この連載では、ベイタウンにおける「まち育て」の事例を紹介していく予定です。ベイタウンまつり以外にも、住民が考え、実行してきたさまざまな活動の延長線にある「まち育て」が



盛況のベイタウンまつり

お馴染みのフリーマーケットや模擬店以外に、街区對抗綱引き大会、パークユウ広場、そして圧巻はベイタウン上空での打ち上げ花火まで、全て住民のアイデアによるイベントがベイタウンまつりの歴史を飾ってきました。

例えば、コアと呼ばれる打瀬公民館は、公共施設でありながら計画・設計段階から素晴らしいピアノの導入までの住民参加の過程、ベイタウンにある街路樹を調査し、見守る活動を行うグ

「まち育て」の歩み

数多くみられます。活発なコミュニティを通じて、快適な環境づくりにつながる「まち育て」が私たちの住むベイタウンにとって、これから一番大切なものになると考えています。

リーンスラム、公園の自主管理など、さまざまな活動が展開されています。この紙面での紹介をきっかけに、それらの活動にみなさんも一歩足を踏み込んでみるのもいいですよ。

◆活動に参加しませんか

「こりゃなんだ・私のお気に入り発見」
 ～まちなか発見・探検 隊員募集予定！～

幕張ベイタウンの中で、日頃感じている危険、こわい、困っている場所、ここがお気に入り、ちゃんと後の世代に残したいところを皆で見えて歩くタウン・ウォッチングを企画しています。是非参加いただき、例えば補修が必要な歩道のタイル、歩行者が危険な交差点などの悪い点から中庭が素敵な街区、レストランなどのお勧めの場所まで、住み良い環境づくりを私たちの目線で見直してみましよう。活動については、あらためてお知らせする予定です。

◆「まち育て」につながるアイデアはいろいろ

この他にも、アイデアベースではいろいろな企画が浮かんでいます。みなさんも何か思いつくものがあればぜひ



街区で表情が違う中庭（公園東の街）

■ニュース発行にあたって

ひお知らせください。それらの実行にあたって多少の運営経費は、自治会連合会が受けた助成金を活用することも可能ですので、遠慮なくご相談いただければと思います。なお、これからメールやホームページなど連絡先を整備した上で、このニュース紙面等での募集を予定しています。

ベイタウン全体のことを考える場として、設立を目指している「幕張ベイタウン協議会」の準備会ができ、その具体的な活動や検討を進めるために準備会の下部組織として有志が集まった作業部会（ワーキンググループ）では、当初手を挙げた有志以外にもオブザーバーとして参加する住民も含め二十名

弱の住民が参加しています。活発な意見交換を行いながら、できるだけスムーズに次の作業に進められるよう、現在では原則として毎月第二、第四日曜日の夕方十七時から、コアで定例会合を開催しています。基本的には参加は自由、意見も自由、幅広くオープンなスタイルで参加者が一緒に考えて考えることを前提にしています。興味のある方は、ぜひのぞいてみてください。

「まち育て」。このキーワードは、私たち住民一人ひとりの力によってベイタウンをより暮らしやすい環境づくりへと導き、いくつもの幹（活動）を抱える大木（ベイタウン）の『根』になるものと信じています。どうか今後ともみなさんのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

■お知らせ

幕張ベイタウン協議会設立準備会では、ニュースの紙面づくりやシンポジウムなどを手伝っていただけるサポーターの募集を予定しています。

■ニュースや活動のお問い合わせ先

メールアドレスなどの連絡先、ホームページ上による情報提供など、現在準備を進めています。準備が出来次第、あらためてお知らせする予定ですので、何卒ご容赦ください。

編集担当 樺田直樹（公園東の街）

まちづくりシンポジウム ～転機を迎えるベイタウン～

- 日 時:平成 20 年 11 月 24 日(月 振替休日)
14 時 00 分～ 16 時 30 分(開場 13 時 30 分)
- 場 所:幕張ベイタウンコア 1 階 音楽ホール
千葉市美浜区打瀬 2 丁目 13 番地(電話 043-296-5100)
- 講 師:齊藤 広子さん(明海大学教授)



さいとう ひろこ 齊藤 広子さん

街づくりの最終段階を迎えた幕張ベイタウン。公共施設の移管や住宅事業者の撤退、千葉県企業庁の解散などによって、これから抱えるまちのさまざまな課題を住民が身近な問題として考える時期にきています。

マンション管理の面でも著名な齊藤広子さんをお迎えし、ベイタウンのまちの管理や運営の課題について、一緒に考える場を予定しています。

主な研究テーマは、住み手が力を合わせて自分たちの住環境をよくする仕組みづくりやマンション管理。近著として、「これから価値の上がる住宅地」(学芸出版社)「コモンでつくる住まい・街・人」(彰国社)等